

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-132	16-322	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
<p>Short- to Midterm Effectiveness of a Brief Motivational Intervention to Reduce Alcohol Use and Related Problems for Alcohol Intoxicated Children and Adolescents in Pediatric Emergency Departments: A Randomized Controlled Trial. 小児救急病院における急性アルコール中毒性の小児および青年のアルコール使用および関連問題を軽減するための簡潔な動機づけ介入の短期から中期の有効性について: 無作為化対照試験</p>		
執筆者		
Arnaud N ¹ , Diestelkamp S ¹ , Wartberg L ¹ , Sack PM ¹ , Daubmann A ² , Thomasius R ¹ .		
掲載誌		
Acad Emerg Med. 2017 Feb;24(2):186-200. doi: 10.1111/acem		
キーワード		PMID:
アルコール急性中毒、救急医療、小児		27801991
要 旨		
<p>目的 ドイツの急性アルコール中毒 (AAI) の救急医療を受けている小児および青年の割合は、過去数年間に急激に増加している。それにもかかわらず、この集団内で将来のアルコール乱用を防止するためのガイドラインおよびエビデンスに基づく介入を無作為化比較試験 (RCT) では研究していない。本調査の目的は、ドイツハンブルクの小児救急病院 (PED) において、飲酒や飲酒に関連する問題を軽減するための短期間の動機づけ介入 (b-MI) の有効性を評価することであった。</p>		
<p>方法 この層別クラスター-RCT は、ドイツ ハンブルグの 6 つの小児科病院の ED のアルコール急性中毒について、2011 年 7 月から 2014 年 1 月まで、金曜日、土曜日、または日曜日に募集され治療された患者に対して、広く確立されているが変更された標的化 b-MI と通常通りの治療 (TAU) を比較した。18 歳未満の患者およびその介護者が研究に参加した。介入は訓練された病院外のスタッフによって行われた。介入群 (n = 141) は、単一セッションの b-MI を受け 6 週間後に電話によるブースター行い、介護者にも短い相談を行った。すべての介入資料は手動ベースでした。TAU 対照群 (n = 175) は、書面によりアルコール使用に関する青少年固有の情報とコミュニティのリソースに関する連絡先情報を受け取った。主なアウトカムは、飲酒頻度の変化、典型的な機会におけるアルコール飲料の数、および簡単なラトガーズアルコール問題指数を用いたアルコール関連の問題であった。結果は、介入の提供に関与しない研究助手によって測定された。ベースラインのデータは小児 ED で直接収集し、フォローアップのデータはベースライン後 3 カ月および 6 カ月間に電話で収集した。副次的アウトカムは、登録後の保健サービスの利用率であった。分析は、線形混合モデルと治療する意向に基づいた。</p>		
<p>結果 b-MI 群では 86.1% (87.5%)、TAU 群では 82.4% (86.9%) に、それぞれ 3 ヶ月と 6 ヶ月後で有効な結果データが得られた。すべてのアウトカムの群間の差は、両群の経過</p>		

観察において統計的に有意ではなかった ($p > 0.05$)。3ヵ月後、ビンジ飲み(大量飲酒)の飲酒頻度の平均変化はb-MI群で-1.36(95%信頼区間[CI] = -1.81~-0.91)、62.1%であり、TAU群では-1.29(95%CI = 1.77から-0.95)、49.0%の減少であった。典型的な機会におけるアルコール飲料の平均変化は、b-MI群では-2.24(95%CI = -3.18~-1.29)であり、37.5%減少し、TAUグループでは-1.34(95%CI = -2.54~-0.14)、26.4%の減少であった。アルコール関連の問題の平均変化はb-MI群で-6.72(95%CI = -7.68~-5.76)、60.5%であり、TAUグループでは-6.43(95%CI = -7.37~-5.49)、58.3%の減少であった。グループ間の平均変化の差は、すべての結果について6ヶ月後も同様であった。

結論

本研究は、救急医療における若年急性アルコール中毒患者の退院時に提供されるb-MIの有効性に関する新しい情報を提供する。どちらの試験群もアルコール使用および関連する問題を軽減したが、b-MIは有意な効果と関連していなかった。介入アプローチは実行可能と思われるが、この関連する目標グループでの成果を改善するためにはさらなる検討が必要である。